

いなべの農業

担い手さん

今、農業は転換期を迎えています。集落全体で農地や施設を守りながら、耕作等は営農組織や担い手に集約していく方向に進んでいます。

今回も若手で認定農業者として営農に励んでいる方を紹介します。



加藤 寛さん（員弁町松之木）

経営規模を教えてください

地元の松之木を中心に、作業の受託を含めて約30haを経営しています。大型トラクター3台、コンバイン6条刈を1台、8条植えの田植機を1台、育苗施設8棟を備え、コシヒカリをメインに約20ha、小麦、大麦などの麦類を約10ha作っています。

農業を行なうことになったきっかけは？

学校を卒業後しばらくは会社に勤めていましたが、25歳のときに親父の跡を継いで農業をしないといけないと思い、就農しました。



小麦の刈り取りも短期間で行います



大変と思うことは？

やはり農繁期といった限られた時期に作業が集中していることや、草刈りは大変です。草は特に夏場はすぐに生えてくるから。それと、何と言っても大変なのは、自分ではどうしようもない「水」の配分・管理です。員弁町の中でも、松之木地区は大きな河川がなく、農業用水はため池だけです。毎年水には苦労しますが、今年のように冬場に雪が降らず、雨も十分に降っていないと、ため池も満水になっていなくて、梅雨時に多く雨が降らないと稲の生育に影響します。水がなく田植えができなかった田もあります。



草刈りは大変な作業です

今後はどのような方向性を考えていますか？

収穫した米の自主ルートでの販売を確立していきたいです。

経営規模は水利のことを考えると、水利に対する労力がかなり掛かるため、無理に拡大するつもりはありませんが、毎年地区内で耕作の依頼が増えているのが現状です。あとは、ほかの方も同じと思いますが、栽培の方法や、作業の省力化や品質の向上について工夫していきたいと考えています。



今年は6月に田植えをしたところがありました

☎ 藤原庁舎 農林商工課 ☎ T 46-6306 ☎ F 46-6319

編集後記

『特集「働くこと」で学ぶ』で勤労体験の様子取材しました。生徒たちの仕事に対する真剣なまなざしと、協力していただいた事業所のみなさんとの温かいふれあいがとても印象的でした。特に、2～3日間という短い時間の中で、事業所のみなさんが生徒たちのためにいろいろと仕事の内容などを考え「働くこと」の大切さや「お金を稼ぐこと」の大変さ「将来の夢」を考える貴重な時間を提供していただいていることにとても感謝しました。さまざまな経験を通して成長していく生徒たちのために、ぜひともこの活動を続けていってほしいと思いました。取材に協力いただきました事業所のみなさん、ありがとうございました。

いなべいきいきマイタウン

▶ よい歯いつまでも…

親子で1位入賞 伊藤 高悦くん・愛子さん親子

5月31日(木)「桑員地区よい歯の審査会」が桑名市役所でありました。歯の衛生週間事業として県歯科医師会桑員支部が主催しています。

『【よい歯】3歳児と母部門』で1位に入賞された員弁町にお住まいの伊藤高悦くん・愛子さん親子です。



情報提供 健康推進課

生活情報「まいめる」QRコード



モバイルサイト QRコード▶



発行/〒511-0293 いなべ市員弁町笠田新田111番地 ☎0594-74-5820 ☎0594-74-5821
編集/企画部 広報秘書課 <http://www.city.inabe.mie.jp/>
平成19年7月1日発行 Vol.44

※古紙配合率100%再生紙を使用

